

神楽シーズン

延岡市 大峡町 にぎやかに里神楽

10月20日 春日神社1300年祭 青城山かぐらまつり

朝夕の冷え込みとともに、県北各地ではよいと神楽シーズンに入る。延岡市の大峡公民館では13日夜、大峡神楽保存会の第26回里神楽があり、大勢の見物客らでにぎわった。これから冬にかけて、県北の各地域で伝承されてきた神楽が、地元の神社や公民館などでお披露目される。

大峡里神楽は県の「記録編さん1300年記念事業・『神話の源流』はじまりの物語」プロジェクトとして実施。午後5時から神楽体験教室、同6時30分からは里神楽およそ5時

間30分はわたって行われた。主催の同保存会（熊本弘一会長）の11人が舞い手と奏楽に分かれて、計13番を披露。里神楽のデビューとなった三輪承平さん、瀬戸口賢一郎さんや、小学生の熊本雄太君や、小学生の熊本雄太君や、拍手がうれしかった。熊本君は「緊張するけど、間違えずに舞いたい」と

深田君は「一番神を勇壮に舞い、力を入れてやっただけだったけど、拍手がうれしかった。熊本君は「緊張するけど、間違えずに舞いたい」と



幣の手舞を披露する大峡神楽保存会の会員ら



県北に神楽シーズンが到来。勇壮に一番荒神を舞う深田君（13日、延岡市大峡町）



餅まきやかつほ酒の接待もあり、大勢の地域住民らが秋の夜を楽しんだ

に「市民会館」を肴のモンパツに出場した延岡学園高野球部の3年生も参加。あいさつに立った椿原隼さん（前主将）は応援、支援に感謝し「今後、地域のボランティアなど協力できることがあればいい」と話した。同保存会員で、城山神楽実行委員会の山崎洋一

会長は「これから12月にかけて、市内の沿岸部や山間部の祭りなどで神楽が相次ぎ、奉納される」と紹介。今年20日には春日神社御鎮座千三百年祭前夜祭、来月11日には第22回城山かぐら祭りなど、大きなイベントも控えている。